

## 富士みちの遺跡

都留市には、多くの風化した石像や石碑が散在しています。その多くは、巡礼者が崇拝する遺跡に数えられています。富士山は長い間自然崇拝の対象でしたが、17世紀には富士講と呼ばれる新しい民俗宗教が登場しました。富士山を主な崇拝対象としています。富士講の中心的教えは、信者が一生に一度山に登るという要請でした。この時代江戸から富士への主要ルートの一つである都留を、多くの信者が通過しました。

通常、富士講の信者によって残された石像や石碑はほとんど、旅行者を守る地蔵といった、旅に関係している様々な像です。特に注目すべきは2人組の道祖神で、これは旅行者の守護神と言われています。これらのうち最も古いものは1695年にさかのぼり、都留に最も集中していますが、他の周辺の都道府県にも多く見つかっています。